

2026 年 8 月 1 6 日 聖霊降臨節第 1 3 主日礼拝次第
信徒奨励日・主日礼拝

前 奏 (黙 想)
招きの言葉 ミカ書6章 8 節(旧約 1456 ㊦)
讃 美 歌 17(聖なる主の美しさと)
主の祈り <A>(讃美歌93-5)
詩 編 交 読 詩51編 1~11 節(交読詩編 59 ㊦)
聖 書 詩139編 1~24 節(旧約 979 ㊦)
祈 禱
讃 美 歌 513(主は命を)
奨 励 「わたしを究め」 熊倉弘幸役員
讃 美 歌 404(あまつましみず)
信 仰 告 白 使徒信条<A>(讃美歌93-4)
献 金
讃 美 歌 88(こころに愛を)
派 遣 祝 福
後 奏 (黙 想)
報 告
※讃美歌は原則として全節を歌います

主の祈り A(讃美歌21 93-5-A)

天にまします我らの父よ、ねがわくはみ名をあがめさせたまえ。
み国を来させたまえ。みこころの天になるごとく 地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を 我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ。
国とちからと栄えとは 限りなくなんじのものなればなり。 アーメン。

聖 書 詩139編 1~24 節

1【指揮者によって。ダビデの詩。賛歌。】

主よ、あなたはわたしを究め

わたしを知っておられる。

2 座るのも立つのも知り

遠くからわたしの計らいを悟っておられる。

3 歩くのも伏すのも見分け

わたしの道にことごとく通じておられる。

4 わたしの舌がまだひと言も語らぬさきに

主よ、あなたはすべてを知っておられる。

5 前からも後ろからもわたしを囲み

御手をわたしの上に置いていてくださる。

6 その驚くべき知識はわたしを超え

あまりにも高くて到達できない。

7 どこに行けば

あなたの霊から離れることができよう。

どこに逃れれば、御顔を避けることができよう。

8 天に登ろうとも、あなたはそこにいまし

陰府に身を横たえようとも

見よ、あなたはそこにいます。

9 曙の翼を駆って海のかなたに行き着こうとも

10 あなたはそこにもいまし

御手をもってわたしを導き

右の御手をもってわたしをとらえてくださる。

11 わたしは言う。

「闇の中でも主はわたしを見ておられる。

夜も光がわたしを照らし出す。」

12 闇もあなたに比べれば闇とは言えない。

夜も昼も共に光を放ち

闇も、光も、変わるところがない。

13 あなたは、わたしの内臓を造り
母の胎内にわたしを組み立ててくださった。

14 わたしはあなたに感謝をささげる。
わたしは恐ろしい力によって
驚くべきものに造り上げられている。

御業がどんなに驚くべきものか
わたしの魂はよく知っている。

15 秘められたところでわたしは造られ
深い地の底で織りなされた。

あなたには、わたしの骨も隠されてはいない。

16 胎児であったわたしをあなたの目は見ておられた。
わたしの日々はあなたの書にすべて記されている
まだその一日も造られないうちから。

17 あなたの御計らいは
わたしにとっていかに貴いことか。
神よ、いかにそれは数多いことか。

18 数えようとしても、砂の粒より多く
その果てを極めたと思っても
わたしはなお、あなたの中にいる。

19 どうか神よ、逆らう者を打ち滅ぼしてください。
わたしを離れよ、流血を謀る者。

20 たくらみをもって御名を唱え
あなたの町々をむなしくしてしまう者。

21 主よ、あなたを憎む者をわたしも憎み
あなたに立ち向かう者を忌むべきものとし

22 激しい憎しみをもって彼らを憎み
彼らをわたしの敵とします。

23 神よ、わたしを究め

わたしの心を知ってください。

わたしを試し、悩みを知ってください。

24 御覧ください
わたしの内に迷いの道が
あるかどうかを。

どうか、わたしを
とこしえの道に導いてください。

讃美歌17番

- 1 聖なる主の美しさと
その栄えを 仰いで、
まごころもて み前に立ち
み名をたたえ、あがめよう。
- 2 重荷すべて 主が代わって
負ってくださる うれしさ。
悩み多い 世の旅路も
みちびく 主のみ恵み。
- 3 心つくし 主に仕えよう。
とるに足らぬ 私の
愛のわざも、身も心も
主は受け入れ、よろこぶ。
- 4 闇をかえて 光とする
主の恵みの 貴さ。
望みは湧き、おそれは消え、
胸に満ちる よろこび。

讃美歌88番

心に愛を 豊かにみだし
日ごとのわざに つかわしたまえ

讃美歌513番

- 1 主は命を 惜しまず捨て
その身を裂き 血を流した
この犠牲こそが 人を生かす
その主にわたしは どう応えよう
- 2 主は父なる 神を離れ
暗くさびしい 世に來られた
栄えも位も すべて捨てた
主のためわたしは 何を捨てよう
- 3 主はゆるしと いつくしみと
とわの命 もたらされた
限りなく深い わが主の愛
その主にわたしは どう応えよう

讃美歌404番

- 1 あまつましみず ながれきて、
あまねく世をぞ うるおせる。
ながくかわきし わがたましいも、
くみていのちに かえりけり。
- 2 あまつましみず 飲むままに、
かわきを知らぬ 身となりぬ。
つきぬめぐみは こころのうちに、
いずみとなりて 湧きあふる。
- 3 あまつましみず うけずして、
つみに枯れたる ひとくさの
さかえの花は いかで咲くべき、
そそげ、いのちの ましみずを。

